

令和元年度第3回高松市子ども・子育て支援会議 事前に提出いただいた御意見等

No.	御意見・御質問等	回 答
1	<p>資料1-3 23頁以下について</p> <p>ニーズ調査結果のグラフについて、多い順の棒グラフにしたほうが見やすいのではないかと、思うがいかがか。</p>	<p>グラフの表示方法については、国が示すニーズ調査に係る調査票の例における選択肢の記載順、あてはまる度合いに基づく順序や回答の分野ごとのまとまり等の観点から特に差し支えない、以下のものについて、回答の割合が高い順に並ぶよう、グラフを修正します。 27頁①、32頁③、33頁④</p>
2	<p>資料1-3 29頁について</p> <p>「就学前児童や小学生の保護者が気軽に相談できる人」についてのアンケートの中で、「『気軽に相談できる人はいない』の割合が増加している」となっている。 子育て世代包括支援センター等が、相談支援の中心になっていくと思われるが、具体的にはいかがか。</p>	<p>子育て世代包括支援センターにおいては、妊娠届出時に専門職による面接を妊婦全員に行うことや、産科医療機関等の関係機関と連携することにより、支援が必要な方を早期に把握するとともに、その後の継続的な相談支援につなげているところです。 また、毎年度、子育て世代包括支援ネットワーク会議を開催し、医療機関や子育て支援コーディネーター、幼稚園・保育所等の関係機関に対し、子育て世代包括支援センターの取組内容等について周知を行い、相談支援を必要とする方への紹介を依頼しております。 今後におきましても、これらの取組のほか、広報紙、ホームページ、SNSや電子母子健康手帳など、様々な広報媒体を活用した周知を強化し、より一層、相談支援が必要な方に寄り添った切れ目ない支援ができるよう、努めてまいります。</p>
3	<p>資料1-3 31頁について</p> <p>本市が子育てしやすいまちだと思わない理由に、共感している。 まず、「公園や児童館など子どもの遊び場が少ない」について。近年の猛暑で、屋内で体を動かせる遊び場を希望する。高松市こども未来館のプレイルームは小学2年までしか利用出来ないで、大きい子ども向けの設備もほしい。 次に、「交通機関が不便」について。新聞で、バスのレインボー、西植田線が減便予定との記事をみた。高校の登下校にこれ以上不便にならないダイヤは確保していただきたい。自転車通学者も雨の日は公共交通が必要だ。特に、高松桜井、西、大手前高校の最寄りのバスは便数が少ない。</p>	<p>ニーズ調査結果によると、就学前児童の保護者で約6割、小学生の保護者で約7割が「本市が子育てしやすいまちだと思わない理由」として「公園や児童館など子どもの遊び場が少ない」を挙げており、課題であると認識しております。頂戴しました御意見は、今後の施策において参考とさせていただきます。 公共交通について、本市では、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えの下、鉄道を基軸としたバス路線の再編により、持続可能な公共交通ネットワークの再構築に取り組んでおります。 バス路線の減便については、ショッピング・レインボー循環バスの減便はございませんが、植田線サンメッセ西植田系統など6路線の減便（休日減便含む）を行うものです。 利用者の需用に合わせたバス路線とすることにより、路線を維持し、持続可能な公共交通体系が構築できるものでございますことから、今後も、利用状況等を確認しながら、交通事業者と協議してまいります。</p>

No.	御意見・御質問等	回 答
4	<p>資料1-3 37頁について</p> <p>不登校対策事業の達成状況がCであるので、不安を覚える。最近の時代のせいもあるかもしれないが、通室率を上げるための手立てが必要ではないか。</p>	<p>不登校の子どもたちに対しては、教育支援センター（適応指導教室）への通室や、自宅で学習できるICTを活用した学習支援システムを希望者に提供することにより、学習支援に取り組んでいるところであり、今後におきましても、学習支援を受ける子どもたちを増やすことに力を入れてまいります。</p> <p>また、不登校支援につきましては、子どもたちの社会的自立を促すことが最終的な目的でありますことから、中学校卒業後の進学・就職率の向上も図ってまいります。</p>
5	<p>資料1-3 51頁について</p> <p>「○学童期・思春期から成人期に向けた支援の充実」のカテゴリー中に、地域共生社会構築事業について触れてもよいように思う（新しい項目なので55頁の一覧には入っているが、冒頭の文言の中にも入れることで位置づけを明確にしてはどうか）。</p>	<p>高松型地域共生社会構築事業については、思春期の子どもや若年者のみならず、子ども・高齢者・障がい者など全ての人を対象として、「地域共生社会」の実現を目指し、包括的な相談支援を実施する事業です。このようなことから、「複合化する課題・制度や分野別の「縦割り」を超えた包括的な相談支援ができるよう、地域共生社会の構築が求められている」旨、「高松市の子どもや子育て家庭を取り巻く主な課題」のうち、「基本方向3 子どもの成長・子育て家庭を支える環境づくりについて」に追記します。</p> <p>&lt;参照&gt;資料1-3 43頁</p>
6	<p>資料1-3 51頁について</p> <p>「現状と課題」の上から4行目に「今後も、こんにちは赤ちゃん事業や健診において、関係機関との連携により、訪問率や受診率の向上を図るなど、着実に母子保健対策を進めていくことが必要です」とあるのを、「今後も子育て世代包括支援センター事業等を中心としてこんにちは赤ちゃん事業や健診において…」と今中心となるべき子育て世代包括支援センターの名称を入れ込んでもよいのではないか。</p>	<p>「妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援の充実」の基本方針の1点目を、「子育て世代包括支援センターを中心として、妊娠期からの切れ目のない支援を行い、子どもの健やかな成長や発達を支援します。」に修正します。</p> <p>&lt;参照&gt;資料1-3 52頁</p>

No.	御意見・御質問等	回 答
7	<p>資料1-3 52頁について</p> <p>「食育の推進」では、農業体験や料理の機会を通じて食への関心、意欲等の醸成につながっており、また、様々な機会を提供するよう書かれているが、現在の小中学校の教育現場では、調理授業も少なく、余程自宅で保護者が食事の準備、調理をしている家庭でなければ目にすることがないので（コンビニ食も多い）、小中学校での調理授業を充実する方が効果的ではないかと思う。</p>	<p>高松市立小・中学校では、国の学習指導要領に基づきまして、各教科の指導計画を作成して指導を行っております。家庭科では、小・中学校ともに、数時間をかけて、食事の役割、栄養・献立、調理の三つの内容とし、基礎・基本的な知識及び技能を確実に習得できるようにしています。調理法では、小学校では「ゆでる、いためる」、中学校では「煮る、焼く、蒸す等」の調理方法を扱うなど、児童生徒の年齢を考慮した適切な計画で学習を進めております。また、調理の学習後には、その成果を家庭で生かす機会として、市教育委員会では全ての学校で自分で弁当を作る「マイ・ランチの日」の取組を行っております。</p> <p>朝日新町学校給食センターでは、食育セミナーの一環として「子ども料理教室」、「親子料理教室」を開催しております。朝ごはんや郷土料理などを題材に、できるだけ子どもたち自身が、調理や後片付けを行うように計画しております。施設の関係で参加人数は限られますが、毎年、多くのことを学んでくれています。</p> <p>これらの取組を引き続き実施し、食育を推進してまいりたいと存じます。</p>
8	<p>資料1-3 70頁について</p> <p>「社会的養護が必要な子どもへの支援の充実」とあるが、近年、「社会的養育」という言葉を使うのが一般的になりつつあるように思われる。もし意図的に「社会的養護」としているのではないなら、検討されてはいかがか。</p>	<p>国によって示された、「新しい社会的養育ビジョン」に基づき、「社会的養育が必要な子どもへの支援の充実」に改めます。</p>
9	<p>資料1-3 69頁について</p> <p>○の категорияに「外国にルーツを持つ家庭」、また「里親家庭」など今後5年間（次期計画まで）の間に課題として増える可能性の高い家庭について、配慮を必要とする家庭としての記載はいらぬか。</p>	<p>国の指針等を踏まえ、「外国につながる幼児等特別な支援が必要な子どもが教育・保育施設や地域子ども・子育て支援事業等を円滑に利用できるよう努める」旨、「地域における子育て家庭への支援の充実」の基本方針に追記します。</p> <p>&lt;参照&gt;資料1-3 81頁</p>
10	<p>資料1-2 5頁について</p> <p>「『家庭における教育力の向上』の基本方針に、『夫婦で力を合わせて子育てをしていく』という視点を追記」とあるが、「家族で力を合わせて」ではだめだろうか。「出産を迎える夫婦が」も「出産を迎える方が」ではいけないだろうか。</p>	<p>「家庭における教育力の向上」の基本方針の1点目を「出産を迎える家族が、子育てに関する正しい知識を身につけ、子育てへの関心を高めることができるよう、体験学習や実習を行います。」に修正します。</p> <p>&lt;参照&gt;資料1-3 83頁</p>